

施設関係者評価レポート

開催期間 令和3年9月13日（月）～16日（木） 5歳児～2歳児
令和3年12月1日（水） 1歳児

開催方法 ZOOMによるオンライン公開保育
但し、1歳児は園内公開保育（当園保育教諭と分園保育士のみ参加）

参加者 小学校関係者1名
市内幼稚園関係者（園長・主幹教諭・保育教諭）12名
当法人保育教諭・保育士19名
保護者1名

園長総評

昨年度はコロナ禍において2歳児の園内公開保育の実施だけとなりましたが、今年度はZOOMを利用したオンライン公開保育とすることで市内幼稚園の教職員を中心に参加していただき実施することができました。ご参加いただいた先生方に感謝申し上げます。

各クラスの評価や振り返りは別紙の通りです。

今回初めてオンラインで実施したことで参加者には少し伝わりづらい場面もあり、今後もオンラインでの公開保育を続けるにあたり、撮影の仕方や保育前に担任から参加者へ向けた口頭での保育内容の説明など工夫が必要と感じました。

コロナ禍が続く中で、せっかく準備しても開催できない行事があったり、保育内容が制限されたりと教職員のモチベーションが下がり、園全体に倦怠感が包まれているように感じた時期もありましたが、公開保育を実施することでやる気や達成感を取り戻せたように思います。

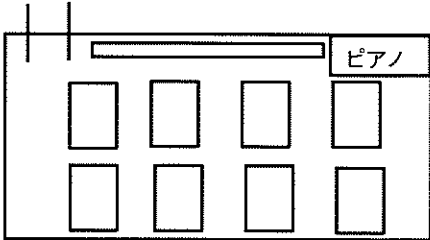
今年の8月には新園舎も完成し、新たな環境での保育となりますが、教職員には子どもたちのために今まで以上の創意工夫をもって取り組んでいただきたいと思います。

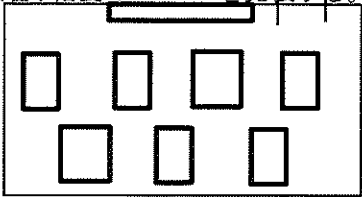
令和4年3月7日

認定こども園長岡和光幼稚園なごみ保育園

園長 若槻 司

| 公開保育指導案 | | |
|--|---|--------------------|
| 令和3年度9月15日(水) | 年長児 ガリバー組 | 担任:S.K A.J 補助員:A.K |
| テーマ | みんなで好きなお弁当づくり! | |
| 要領ねらい | 環境(2)身近な環境に自分から関わり、発見を楽しんだり、考えたりし、それを生活に取り入れようとする。 | |
| 要領内容 | <input type="checkbox"/> 健康(9) 自分の健康に関心を持ち、病気の予防などに必要な活動を進んで行く。 <input type="checkbox"/> 人間関係(8) 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見だし、工夫したり、協力したりなどする。 <input type="checkbox"/> 言葉(3) したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、分からないことを尋ねたりする。 | |
| 先週末までの活動概要と園児の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・春頃から食育の活動が始まり、様々な食品の栄養について興味を持っている姿が見られる。 ・食品の赤・黄・緑グループに分けることが出来るようになってきたが、まだ理解が難しい子どももいる。 ・8月のサマースクールは延期になったが、秋の遠足に向けて「お弁当早く食べたい!」「お弁当にミートボールがあったらいいな」とお弁当に期待を寄せている。 ・お弁当を作ってみたいという意見から、自分のお弁当に「入っていたらいいな」と思うお弁当を考えて、絵に描いた。 ・制作をしていくうちに、友だちとこのおかずは「どっちの栄養になるのかな」とグループを考えるようになり、お弁当作り当日を楽しみにする姿が見られた。 | |
| 予想される姿・幼児の姿 | 環境・指導のポイント | |
| <p>○朝の会(10:00~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今日の当番は前に出る。 ・「おはようのうた」「やくそく」を大きな声で歌う。 <p>・姿勢を正し、当番の子が名前を呼んで、呼ばれたら元気に返事をする。</p> <p>・日付確認を行った後、当番は保育者からシールを受け取り待っている子に渡す。</p> <p>おはようブックにシールを貼る。</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが自分の当番を聞き逃さないように、大きな声でゆっくりと当番の子の名前を呼んで、前に出るように伝える。 ・リズムに乗って楽しんで歌えるように、曲調に合わせてピアノを弾く。 ・当番にみんなに聞こえる声で名前を呼ぶように伝える。 | |
| <p>○主活動(10:20~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三色食品群のクイズを楽しみ、お弁当づくりに期待感をもつ。 ・栄養の話聞いて、食べ物と体の働きについて知り、栄養バランスの良いお弁当をつくる意欲を高める。 ・友だちと話し合いながら食品を確認する。 ・食べ物を描いた紙の両面テープを剥がしてお弁当の紙に貼る。 <p><予想される子どもの姿></p> <p>◎積極的に話し合いへ参加していない子どもがいる。</p> <p>◎どの食べ物を使うか、活動班内で意見が分かれる。</p> <p>◎早く終わる活動班がいる。</p> | <p><導入 クイズ「食べ物の栄養」></p> <ul style="list-style-type: none"> ・お弁当づくりの意識を高める。 ・栄養の話をして、食べ物と体の働きについて理解が深まるようにボードとイラストを使って伝える。 ・見通しを持って制作できるよう終わりの時間を示す。 ・絵に描いた食べ物を友だちと赤・黄・緑のグループに分けてお弁当を作り、完成したら食べ物の紙の裏にある両面テープを剥がしてお弁当箱の紙に貼るように伝える。 ◎活動班に入り、あまり声を発していない子どもに声を掛け、どんな話をしているのか、難しいことは無いかな等聞いて、活動に参加できるようにする。 ◎活動班に入って、どうやって決めるか仲立ちをする。 ◎お弁当に赤・黄・緑のグループがあるか確認して、子どもが他の食べ物が必要だと気付いたら事前に用意した食べ物を渡して、栄養バランスへの気付きにクラス全体に共有する。 | |
| <p>○片付け(10:40~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・両面テープのゴミを捨てる。 <p>○お弁当発表(10:45~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の活動班や他の活動班の弁当を見て喜び、食への関心を高める。 | <ul style="list-style-type: none"> ・片付けの5分前に声掛け、見通しをもてるようにする。 ・発表に期待を寄せる活動班から順に前で発表するように伝える。 ・それぞれの良さを認めて、活動に対する達成感をもてるようにする。 | |
| <p>○給食の三色食品群分け(11:00~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食材が何色グループか考え、手を挙げて発表する。 | <ul style="list-style-type: none"> ・今日の活動を振り返るために、食材を一つずつ読み上げて、その食材が何グループか確認する。 | |
| <p>○給食準備(11:15~)</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・排泄・手洗いを促し、机を消毒する。 | |



| 公開保育指導案 | |
|--|--|
| 令和3年度9月14日(火) | 年中児 ビノキオ組 担任:M.T F.H |
| テーマ | みんなで相談して、グループ名を決めよう! |
| 要領ねらい | 人-2 身近な人と親しみ、関わりを深め、工夫したり、協力したりして一緒に活動する楽しさを味わい、愛情や信頼感を持つ。 言-2 人の言葉や話などをよく聞き、自分の経験したことや考えたことを話し、伝え合う喜びを味わう。 |
| 要領内容 | 人-8 友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする。 言-2 したり、見たり、聞いたり、感じたり、考えたりなどしたことを自分なりに言葉で表現する。 表-7 かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。 |
| 先週までの活動概要と園児の姿 | ・新学期が始まり、子どもたちも園生活のリズムを取り戻してきた。子どもたちから「席替えしないの?」との声が上がったため、色々な友達と関われるよう席替えを行おうと考えた。 ・春からグループ活動を多く取り入れている。今まではグループ名を話し合っただけだったが、活動を発展させ協力して制作活動まで行えるようにした。 |
| 予想される姿・幼児の姿 | 環境・指導のポイント |
| <p>○朝の会(10:00~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴と椅子を出す。靴は机の横にかける。 ・朝の歌を元気よく歌う。 ・朝の挨拶をし、季節の歌を歌う。 ・椅子に座り、日付の確認、天気を皆で言う。 ・おはようブックにシールを貼る。 ・おはようブックをカバンにしまう。 ・当番になった子は、名前を呼ばれたら元気よく返事をする。 <p>○グループ決め(10:15~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいグループになり友達と喜び合っている。 ・同じグループの友達と話し合いをし、グループ名を決める。 ・意見がぶつかり、なかなか名前が決まらないグループがある。 ・グループ名を発表し合う。 <p>○グループでマークを制作(10:30~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達と話し合い、使いたい素材を決め、取りに行く。 ・制作に必要な道具(はさみ・のり)を順番に取り出す。 ・イメージを言葉にしなが、友達と制作を楽しむ。 ・友達と完成を喜び合う。 ・完成したグループの子から片付けをし、粘土・お絵かきを行う。 <p>○給食準備(11:15~)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番に排泄、手洗いをを行う。 | <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・靴と椅子を出すよう声を掛ける。 ・子どもたちの前に立ち、楽しみながら歌う。 ・鏡になるように手で数字を出して子どもたちと一緒に日付・天気を確認する。 ・おはようブックのシールを配る。 ・当番、給食のメニューを発表する。  <ul style="list-style-type: none"> ・手拭き用のふきん、のり台紙を各テーブル分用意する。 <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新しいグループになった喜びに共感し、これからグループ決めをすることを伝える。 ・見通しが持てるよう、「長い針が○まで」と目安の時間を伝え、話し合いをするよう伝える。 ・意見がまとまらないグループは仲介に入り、どのように決めるか提案をする(ジャンケン、多数決など)。 ・グループ名を聞く。意見が重なった場合はジャンケンで決め、代表者が出てくるよう声を掛ける。 <p>○</p> <ul style="list-style-type: none"> ・グループの友達と協力し、テーブルのマークを作ることを説明する。様々な素材を用意し、素材の種類や使い方などを子どもたちに問いかけながら紹介する。 ・制作する生き物をイメージできるよう図鑑や本などを用意しておく。 ・使いたい素材を取りに来るよう、順番に声を掛ける。 ・使用する道具を取りに行く前に、ハサミの使い方(人に向けない、使い終わったらキャップをしめておく)を、子どもたちに問いかけながら確認する。 ・混雑を避け、ロッカーが上の段の子から道具(はさみ・のり)を取ってくるよう声を掛ける。 <p>・排泄、手洗いをするよう声を掛ける。机を消毒する。</p> |

| 公開保育指導案 | |
|---|--|
| 令和3年度9月16日(木) | 年少児 ムーミン組 担任:M.Y M.K |
| テーマ | 秋の折り紙制作～ブドウを作って教室に飾ろう！～ |
| 要領ねらい | 表現(2)感じたことや考えたことを自分なりに表現して楽しむ。 |
| 要領内容 | 環境(4)自然などの身近な事象に関心をもち、取り入れて遊ぶ。 言葉(3)したいこと、してほしいことを言葉で表現したり、 分からないことを尋ねたりする。 表現(7)かいたり、つくったりすることを楽しみ、遊びに使ったり、飾ったりする。 |
| 先週までの活動概要と園児の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・かき氷やアイスクリームなど、季節にちなんだ折り紙制作を行ってきた。初めは簡単なものからスタートし、徐々に難易度をあげてきた。春の頃と比べると保育者の説明を集中して聞いたり、理解したりする力が付いてきた。また、保育者の真似をして正しく折ろうとする姿が見られる。 ・折り方が分からなくなると戸惑う姿も見られるが、分からない時は「教えて。」と言葉で伝えることができるよう繰り返し声をかけている。 ・フラワー紙を使い、ブドウの軸を糊で貼り付けた。また、1学期から練習しているハサミを使い、事前に葉っぱを制作した。保育者が描いた下書きの線に合わせて、直線切りで葉っぱを切り取った。切り取った葉っぱがブドウの葉っぱになることを伝えると今回の制作へ向けて期待を高めていた。 |
| 予想される姿・幼児の姿 | 環境・指導のポイント |
| <ul style="list-style-type: none"> ・トイレで排泄を済ませる。 <p>○朝の会(10:00～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・椅子を自分の席に持ってくる。 ・カバンを出して机の横にかける。 ・カバンから出席ノートを取り出し机の上に置く。 ・「おはようのうた」「どんぐりころころ」を元気よく歌う。 ・保育者と日付を確認し、朝の挨拶をする。 ・出席ノートにシールを貼る。 ・出席ノートをカバンに片付け、机の横に掛ける。 ・姿勢を直し、名前を呼ばれたら元気に返事をする。 <p>○折り紙制作【主活動】(10:15～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・完成した作品を教室に飾る事を知り期待を持つ。 ・お道具箱から糊とクレヨンを取ってきて、机下の脇に置く。 ・保育者の説明を聞きながら、折り紙でブドウを折る。 ・折り方が正しいかどうか不安になり、保育者に確認する子がいる。 ・クレヨンで葉脈やブドウの粒を描きこむ。 ・机の下から糊を机の上に出す。 ・糊でブドウと葉っぱを台紙に貼る。 ・手拭きで手についた糊を拭き取る。 ・画用紙の空いている所にクレヨンで好きな絵を描く。 ・頑張った所や、どのような絵を描いたかを発表する。 ・前に立つと緊張してうまく言葉に出すことができない子がいる。 ・他児の作品をみて、良いところを認め合う。 <p>○給食準備(11:15～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・順番に排泄、手洗いをを行う。 | <ul style="list-style-type: none"> ・トイレの見守りと、保育室の準備の分担に分かれる。 ・準備に集中できない様子が見られた際は他児の様子を伝え、周りを意識して行動できるようにする。 ・子どもたちの前に立ち、一緒に楽しみながら歌う。 ・子どもたちに問いかけるかたちで確認し、日付や曜日の感覚を持つことができるようにする。 ・一人ずつシールを配り、今日の日付の場所が分からない子には指を指しながら教える。 ・丁寧に名前を呼び、返事を笑顔で受け止める。 <div data-bbox="821 1198 1204 1377" data-label="Image"> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・これから作るものは完成したら教室に飾ることを伝え、意欲を引きだす。 ・グループごとに糊とクレヨンを取りにいき、机下の脇に置くことを伝える。 ・子どもたちの前に立ち、見本を示しながら折り方を説明する。 ・折り方が正しいか確認したい子や、折り方がわからない子に対して、気持ちを受け止めて肯定的に应答する。 ・クレヨンでブドウに粒を描きこんでみよう伝える。 ・葉っぱの筋は葉脈と言うことを伝え、描いてみよう促す。 ・一人ひとりに手拭きを配る。 ・糊の感触を楽しめるような声掛けをしたり、多くとりすぎている子には傍で見本をみせながら適量を伝えたりする。 ・手についた糊は自分の手拭きで拭き取るよう説明する。 ・空いている所に好きな絵を描いてみよう伝える。 ・完成した作品を発表してくれる子を集う。 ・緊張して言葉が出なくなっている子に寄り添い、安心して発表できる雰囲気を作る。 ・子どもの発表を温かく聞き、頑張ったことや作品自体を認める。 |

公開保育指導案

| | | | |
|---|--|--|-----------------------------|
| 令和3年度9月13日(月) | | 2歳児 ラスカル組 | 担任:H.F R.O A.Y M.N 保育補助:N.O |
| テーマ | 運動遊び | | |
| 要領ねらい | 健康(2) 自分の体を十分に動かし、進んで運動しようとする。 | | |
| 要領内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・健康(4) 様々な活動に親しみ、楽しんで取り組む。 ・人間関係(7) 友だちのよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう。 ・表現(8) 自分のイメージを動きや言葉などで表現したり、演じて遊んだりするなどの楽しさを味わう。 | | |
| 先週までの活動概要と園児の姿 | <ul style="list-style-type: none"> ・マット遊び…くぐる、跳び箱からのジャンプ(保育者とタッチしながらジャンプする) ・バランス運動…ミニ平均台の上を歩く、グラグラトンネル、綱の上を歩く ・ボール遊び…蹴る、投げる、転がす、足の間に挟む ・フラフープ遊び…トンネルをくぐる、電車ごっこ、輪の上をジャンプ ・かけっこ、障害物レース、サーキット、滑り台、跳び箱の山によじ登る ・リトミック…おおかみさん、ピアノの音に合わせて走る、動物・戦隊物になって動く ・リズムダンス <p>新年度(4, 5月)に比べて一人ひとりの運動機能が身につく様々な物への興味が見られる。また、挑戦したいという意欲が見られる。一方、初めての事に戸惑い固まったり躊躇してしまう子の姿も数名見られる。自分の思いを言葉で伝える子も増えてきた。</p> | | |
| 予想される姿・幼児の姿 | | 環境・指導のポイント | |
| <p>○片付け(9:45～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・トイレへ行き、排泄を行う。 ・戻った子から順に朝の会の準備を行い着席する。 <p>○朝の会(10:00～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・普段と違う雰囲気、不安な表情を見せたり周りの様子が気になり、集中力が切れたりする。 ・季節の歌をうたう。『どんぐりころころ』 ・呼名をする。 ・日付けを確認し、おはようブックにシールを貼る。 ・日付けや天気に関心を持ち、保育者に伝えようとする。 ・元気よく手を上げ返事をする子や、恥ずかしさから無言になってしまう子がいる。 ・ホールへ移動する。 ・ステージ前に座り、保育者の話を聞く。 ・これからの活動に期待感を持つ。 <p>○運動遊び</p> <p>1. かけっこ</p> <p>①(6×4レース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれた子から指示されたスタート位置に立つ。 ・呼名されたら返事をして、スタートの合図でゴールにいる保育者の所まで走る。 ・ゴールした子はマットの上に座り、これから走る子の応援する。 ・全員が走り終わったら忍者に变身し静かにステージ側まで戻る。 <p>②(6×4レース) ※障害物あり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者が提示した動物(うさぎ)に变身しスタートの合図でゴールまで行く。 ・中間地点にある障害物(ミニ平均台)をジャンプする。 ・名前を呼ばれた子からスタート位置に立つ。 ・男女別に好きな動物に变身しステージ側へ戻る。 <p>2. リズムダンス(わーお！+もう1曲) (10:40～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホール中心で保育者や友だちと一緒に踊ることを楽しむ。 ・友だちと近づきすぎてぶつかってしまいそうな子がいる。 ・1曲踊り終わるともっとやりたいという子がいる。 ・ステージ前に集まる。今日の活動を振り返り、喜んで話す。 ・A,Bグループに分かれ、順に移動する。(10:45～) ・保育者に名前を呼ばれた子から、1階へ移動しへ移動し排泄を行う。(後半に移動する子はホールで水分補給をする。) <p>○順次給食準備に移る。</p> | | <ul style="list-style-type: none"> ・トイレ、保育室の分担に分かれる。 ・ズボンやパンツが上手く着脱出来ない子に対し声を掛け必要に応じて援助を行う。 ・不安な気持ちを受け止め、寄り添う。 ・子どもたちの前やそばに立ち、一緒に楽しみながら歌う。 ・子どもの動きを見ながら、速さや高低差のついた伴奏を行う。 ・指で数字を示しながら子どもと一緒に日付け確認を行う。 ・子どもたちが自分で考えることができるよう、実際に外の天気を一緒に見ながら、今日の天気を問いかける。 ・一人ひとりの気持ちを受け止めながら、声掛けを行う。 ・階段を上る際には、必ず手すりに掴まるよう声を掛け、男女で時間差を付け安全に移動できるようにする。 <p>【かけっこ】</p> <p>①第1レース (6×4レース) ②第2レース(障害物あり 6×4レース)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・待っている子と一緒に応援しながら見守る。 ・緊張から泣いてしまったり固まってしまう子には優しく声を掛け並走する。 ・障害物を上手く行う事が出来ない子に対しては手をつなぐなど安全に越えられるよう援助する。 ・子どもと一緒に楽しみながら踊る。 ・子ども同士の間隔に注意し近づきすぎの子にはぶつからないように、少し離れるよう声を掛ける。 ・子どもたちと共に活動を振り返る。 ・子どもたちの言葉に傾聴し、表情や気持ちに共感する。 ・A, Bグループに分け前半に1階へ戻る子の名前を呼ぶ。 ・半々で手分けして安全に1階へ戻れるよう声を掛ける。 <p>○排泄援助・給食準備</p> | |

公開保育指導案

令和3年度12月1日(水) | 1歳児 ビーバー組 | 担任:HE H.N

テーマ 小麦粉粘土で遊ぼう!

| | |
|-------|---|
| 要領ねらい | 人ー(1) 幼保連携型認定こども園での生活を楽しみ、身近な人と関わる心地良さを感じる。 環ー(3) 見る、聞く、触るなどの経験を通して、感覚の働きを豊かにする。 表ー(3) 生活や遊びの様々な経験を通して、イメージや感性が豊かになる。 |
| 要領内容 | 人ー(6) 生活や遊びの中で、年長児や保育教諭等の真似をしたり、ごっこ遊びを楽しんだりする。 環ー(3) 身の回りの物に触れる中で、形、色、大きさ、量などの物の性質や仕組みに気付く。 表ー(1) 水、砂、土、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 |

| | |
|----------------|---|
| 先週までの活動概要と園児の姿 | ・粘土、スライム、砂遊び等の感触遊びに興味を持ち、積極的に遊ぶ姿が見られる。 ・先週、折り紙でたこやきを作ったことで、お店屋さんごっこに興味を持っている。 次何を作るか子どもたちに問いかけると「パン!」「メロンパン!」等声が上がった。 |
|----------------|---|

| 予想される姿・幼児の姿 | 環境・指導のポイント |
|--|--|
| ○朝の会 10:00~ ・朝の歌を保育者と一緒に歌う。 ・朝の挨拶をし、季節の歌を歌う。 ・日付、天気を確認する。 ・保育者に名前を呼ばれ、元気よく返事をする。 ・保育者による絵本の読み聞かせを楽しんで見る。 ○感触遊び(小麦粉粘土) 10:15~ ・粘土で遊ぶことを知り、喜ぶ。 ・粘土をこねたり、ちぎったり、つついたりして感触を楽しむ。 ・保育者の声掛けを聞き、パンを作る子どもがいる。 ・型で粘土を型取ったり、どんぐりを粘土の上に乗せ、想像力を膨らませて遊ぶ。 ・直接触れることに抵抗を感じる子どもがいる。 ・粘土の色が混ざり合う様子を楽しむ。 ・活動に飽きた子どもは、保育者と手を洗い、ブロックで遊ぶ。 | ・子どもたちの前に立ち、一緒に歌う。 ・指を使いながら、丁寧な言葉がけで子どもたちと一緒に日付を確認する。 ・子どもたちの名前を呼び、返事ができた際はほめて認め、自信に繋がられるようにする。 ・次の活動の導入として、絵本『ぱんぱんあーん』を読み聞かせする。 ・赤・青・黄 3色の粘土を用意する。 ・実際に見せながら粘土で遊ぶことを子どもたちに伝える。 ・粘土を口に入れないことを子どもたちに伝える。 口に入れても安全な小麦粉粘土を使用する。 ・「プニプニしているね」「パン作れるかな」等子どもたちの想像力が膨らむような声掛けをし一緒に粘土を楽しむ。 ・見立て遊びをしている子どもには、型やへら、どんぐりを渡し、更なる発展につなげる。 どんぐりは以前散歩で拾った物を使用する。 ・触れることに抵抗のある子どもには、粘土をビニール袋や容器に入れて渡し、直接触れなくても楽しんで活動に参加できるようにする。 ・一人ひとりの遊びをよく観察し、それぞれの興味に合った声掛けをする。 ・活動に飽きてしまった子どもが遊べるよう中央スペースに、ブロックを用意する。 ・飽きた様子の子にはブロック遊びに誘い、次の遊びに移れるようにする。 ・子どもの作品は、後日お店屋さんごっこで使用することを伝え、保管する。 |

■評価

〈朝の会〉

- ・当番が前に立ち先生の代わりとなっていた。挨拶・服装チェック・呼名等一通りの流れを当番がすることで小学校の当番活動も意識できると感じた。
- ・おはようブックの日付シール貼りでは、グループの子ども同士でシールを貼る場所を教え合っていた。
- ・歌の歌詞を保育室に掲示しており、歌詞を見ながら自信を持って歌うことができていたように思う。

〈主活動〉

- ・主になり話をしている保育者の声が聞き取りやすく、子どもも落ち着いて聞いていると感じた。
- ・三原色食品群をイラストで説明しており、分かりやすかった。
- ・クイズでは子どもが意欲的に挙手し、発言する姿がみられた。ゲーム感覚で楽しみながら食について学べており、参考になった。
- ・どの色のグループがどのような働きをしているか理解している子がいて、4月から継続している活動が身につけているように感じた。
- ・グループの子ども同士で意見を言い合うことができていた。保育者は意見が対立した際にすぐに気づき仲介に入る姿がみられた。
- ・意見が言えない子に対し、補助の保育者が寄り添って声をかけていた。
- ・子どもが楽しみにしているお弁当を題材にすることが子どもの興味へと繋がっていた。
- ・今後行われる秋の遠足や日頃の給食への興味が広がると感じた。
- ・他のグループの弁当を見て、食材がどのグループに入るのか、どのグループが少ないのか思ったことを言葉にする姿が見られ、年長児らしさを感じた。
- ・食材の理解を深めていく上でとてもいい活動だと感じた。

〈発表〉

- ・どうやって待てばよいのか、どの様に発表すればいいのか、ヒントを投げかけ自分たちで考えられるようにする工夫がされていた。
- ・友だちと作った個性豊かなお弁当を発表する姿がとても嬉しそうで、秋の遠足の弁当を更に楽しみに感じているようだった。

■振り返り

- ・5月から毎月一回食育を行っているが、なかなか身につけていなかった。その為、私たちが三色食品群のイラストを掲示したり、クイズをしたり、子どもたちが覚えられるように取り組んだ。毎日、給食の献立を発表して、赤・黄・緑等を伝え、だんだん覚えている姿が見られた。公開保育日は、今までの成果を感じられて、身に付いたのだと思う。
- ・活動時間が長い分、集中力が続かない様子が見られた。その為、発表前後に静かな時間を作るなどメリハリが作れたらよかった。
- ・食べ物と体の働きのイラストに、赤・黄・緑の色があればわかりやすかった。

■評価

〈朝の会〉

- ・季節の歌で歌う曲を子どもと多数決で決めてよかった。
- ・座り方が崩れている子、集中して話を聞いていない子に補佐の保育者が個別に声をかけており、全体的に落ち着いていた印象だった。

〈主活動〉

- ・話し合いながら制作を進め、4人で1つの作品を協力して作っていたよかった。
- ・様々な種類の素材を用意しており、子どもが素材を選ぶ時間も十分に確保していた事で主体性を持って取り組んでいると感じた。
- ・紙の上に切り貼りしていくのは難しいと思うが、鉛筆で下書きしながら自分たちで工夫して取り組んでいた。
- ・図鑑を見せることで、子どもの気づきがあった。又、グループ内で共通のイメージができておりよかった。
- ・保育者が各グループを万遍なく周り、必要に応じてアドバイスしつつ見守っていたよかった。
- ・制作を進めていく中で、グループ内で意見の食い違いや迷いがあった際には図鑑を広げ、保育者が仲介となり相談していた。相談することで全員が納得し、制作を再開することができていた。
- ・30分以上たっても集中して取り組んでいる子が多く感心した。
- ・背景に力を入れ肝心のメインのマークが小さくなっているグループがあり、子どもらしく面白かった。

■振り返り

〈良かった点〉

- ・担任同士の連携がしっかりとれたため、活動を円滑に進めることができた。
- ・グループのマークを決める際に、選択肢が増えるよう図鑑を用意した。制作時に使う折り紙やお花紙など、教材の準備がしっかりできた。
- ・グループで一つの物を作るのは難しかったが、楽しみながら協力できてよかった。
- ・子どもたちが主体となって話を進めていくために、時間を細かく設定しなかったため、時間に縛られずのびのびと活動できた。

〈反省点〉

- ・完成したマークを活動内に発表する時間がとれなかった。翌日保育室に飾り、子どもたちがお互いの作品を見れるようにした。

■評価

〈主活動〉

- ・全体的に綺麗に折り紙を折れる子が多くて驚いた。内容も子どものレベルに合ったものになっていた。
- ・壁面がガラんと空いていることで、『あそこに飾りたい』と意欲をもって取り組める環境構成となっていた。
- ・保育者の声音が落ち着いており聞き取りやすかった。
- ・子どもたちが折れたことを確認しながら進めていてよかった。子どもも折り方が分からない際には保育者に「分からない」と言葉で伝えることができている様子があり、普段から保育者が子どもの気持ちに寄り添っているのだと感じた。
- ・子ども同士で教えあう姿が見られてよかった。
- ・子どもたちの集中力に驚いた。ゼロの状況から完成まですることで達成感が感じられる内容だった。
- ・保育者が子どもの目線に合わせて個々に説明をするところがよかった。
- ・補佐の保育者が、主当番の保育者の説明を繰り返したり、補う事で全体に指示が行き届いていた。又、子どもが席に着くのにかかっている際にはカウントをとり、ゲーム感覚で席につけるようにし、主当番が話しやすい環境をつくっていた。
- ・保育者同士の連携がとれており、2人でしっかりと相談して保育計画を立てていると感じた。
- ・台紙や折り紙を配るとき、「紙が破けてしまうから、手はお膝にしてね」と理由を添えて指示を出していて、子どもが理解しやすい声掛けがされていた。
- ・折り紙指導の際、ホワイトボードでは折り紙の白と重なって見えにくくなる為、黒画用紙を下敷きにし、見やすくなる工夫がされていた。
- ・折り紙の色やブドウの粒の色等の制作に係るものが保育者に決められていたが、最後に余白に自由に絵を描く時間を設けたことで、好きな色や好きな表現を楽しめていたと感じた。

〈発表〉

- ・恥ずかしくなくなったのか言葉が思うように出ない子どもに対して、急かすことをせず一言を待ったり、言葉を引き出して安心感のある対応だった。

■振り返り

〈良かった点〉

- ・事前にブドウの軸や葉を制作しておいたことで、当日の活動(ブドウ制作)への期待を高めることができた。
- ・最後に作品を発表する機会を作ったことで、他児の作品に関心を持ったり、周りに認めてもらう喜びを感じたりすることができていた。
- ・壁面の掲示場所をあえて空白にしておいたことで、自分たちで作ったもので教室を華やかにしたいという気持ちを引き出した。
- ・活動終了時に「夕方に飾っておくね。」と伝えたことで、翌日の登園時に掲示された壁面を親子で楽し

んで鑑賞する姿が見られた。

- ・画用紙の空いている部分に好きな絵を描いてもらうようにしたことで、自由な表現を楽しむ姿が見られ個性豊かな作品に仕上がった。

〈改善点〉

- ・通常の折り紙より大きなサイズを使用したため、折ることにやや苦戦する子もいた。事前に大きな折り紙での制作経験を積んでおく必要があった。

- ・制作時間が予定よりも長くなり、集中力が続かず離席してしまう姿が見られた。また、発表の時間が短くなってしまい、人数が限られてしまった。

■評価

〈朝の会〉

- ・通園かばんを机横に掛けており、カバンを取り出しやすく良かった。
- ・点呼では各テーブルの前に保育者が立ち呼名する事で、子どもも保育者に意識を向け、元気よく返事する姿が見られた。
- ・シール貼りの際に、貼る場所に絵を描いて目印となるようにしてよかった。
- ・シール貼りや衛生チェックの際に保育者が子どもとのやり取りを楽しんでいる姿がみられた。
- ・出欠確認では子どもが呼名に元気よく答える姿が見られ、良い習慣がついていると感じた。保育者も各テーブルの前に移動し、子どもと目線を合わせて名前を呼んでよかった。

〈活動〉

- ・体を動かす楽しさを感じている様子が子どもたちの表情から伝わってきた。保育者が一緒に楽しんでいる様子が子どもの生き生きとした姿に繋がっていると感じた。
- ・巧技台ジャンプで保育者の「みんなが走るのが上手だから意地悪しちゃった」という声掛けが素敵なフレーズだと感じた。
- ・活動に消極的な子どもにも目が行き届いており、個々に合わせてさりげなく援助していた。
- ・ダンスを行う前に『ヘリコプター』とゲーム感覚で間隔を広げてよかった。

〈その他〉

- ・全体的に並ぶ、待つができる子が多くいた。
- ・保育室内にテープで直線が引いてあり、線の上で列をつくることで、素早く整列できていた。
- ・ホールへ移動する際に混雑しないように分けて出発しており、混雑せずに安全に移動できる工夫がされていた。

■振り返り

〈片付け～ホールへ移動〉

- ・リモートでの公開保育・保育参観で、緊張し委縮してしまう子や気持ちが不安定になってしまう子がおらず、子どもたちの素の表情や姿を見てもらう事が出来た。
- ・週明けで、気持ちが不安定になってしまう子が多いのではないかと予想していたが、逆に気持ちが高まりすぎて周りが見えなくなってしまう子が多く居た。
- ・事前準備の際にクラス内の現状を踏まえた上で、色々な子どもの姿を予想し保育内容を職員間で話し合う事が出来た。また、大まかな役割分担は決めておいたが、全職員がどの職員のポジションでも動けるように一人ひとりが内容や動きを事前に把握し、常に職員間で声を掛け合いながら臨機応変に対応することができた。
- ・一斉保育の活動を行いながらも、できる限り子どもたち自身が主体性を持って発言する場、自分のイメ

ージを持って行える場を作ったことで、動物の動き一つとっても個性が出ていた。

- ・保育室内の環境構成については、ホールへ移動する時のための男女別赤青ラインに机が被らないように7台配置しているため、机同士の間隔が狭くなってしまう。椅子につまづいて転倒などの怪我に繋がらないよう、朝の会前の水分補給では、次の活動(朝の会)がスムーズに、安全に行えるように各グループを順番に呼び、子ども同士の動線がぶつからないよう工夫した。
- ・朝の会の衛生チェックでは爪の長さを確認する職員と合格ハンコを押す職員とで分け、『〇〇グループハンコお願いします。』など声を掛け合いながら行った事でスムーズだった。
- ・ホールへの移動では男女別に少人数で時間差をつけ移動し、階段で押し合い等にならず安全に移動することができた。

〈主活動〉

- ・活動内容などを話す前に手遊びを取り入れ、静と動のメリハリを感じられるよう子どもの関心や目がきちんと保育者の方に向けてから説明を行うよう意識した。
- ・かけっこのゴールにはマットを3枚敷き、視覚からもゴール後の待機場所だという事を認識できるようにした。また、ゴールで待つ保育者はゴールマットよりも前で待ってしまうと、全員がその保育者に向かって走り、ぶつかってしまう危険性が予測された為、ゴールマットの奥に職員を配置した。それにより、安全に思い切り走ることができた。
- ・スタート位置には、ビニールテープを等間隔に貼り、子ども同士が近くならないような環境構成にした。目印があることで、自分の立ち位置が決まった後もフラフラする様子は見られなかった。
- ・動物に変身する際、シルエットを見せた事でどの子にも分かりやすく変身内容を伝えることができた。今後は発展させて、言葉だけで伝える方法も用いていきたい。
- ・障害物を取り入れたかけっこでは、見本を子どもにやらしてもらったことで、他児も友だちが見本をしている姿をよく見ようとしていた。
- ・かけっこの後半になってくると、待ってられずマット内で動き回る姿が見られた。
- ・リズムダンスでは、踊る前にジャンプやヘリコプターの動きを入れながら子ども同士の間隔が近くなりすぎないようにした。
- ・1曲踊ると「次〇〇したい！踊りたい！」という声が積極的に子どもたちから上がり意欲的で良かった。

【Q&A】公開保育を見た感想の中にあつた質問・感想、意見への回答

Q. 午睡スペースはどこか？

A. 給食までは布団を敷かず、給食後に保育室内を掃除してから布団を敷き、午睡スペースを作っている。

■ 活動の中で、順番を待つ時間が少し長かったように感じた。飽きずに待てる工夫があるとさらに良いとおもう。

A. 活動内容を決める際にもラスカル職員内でも課題にしていた点である。

1回に走る人数を増やしてみる・かけっこの種類を減らす待てるのが先に走る等子どもの様子を予測しながら活動の内容を見直しできる限り待つ時間を短くできるようテンポよく進める事を意識しながら行った。実際に活動を進めながらも待ち時間が少し長く、ゴールマットで集中力が切れてしまう子の姿も見られた。そのため今後の反省として、2歳児クラスの子の集中が切れない程度の活動の進め方を見直していきたい。

■ 『活動後、その場での振り返りが…』の感想が多かったことについて。

A. どこで何をするかでその場での振り返りは有無があります。

今回は、2階ホールでの活動だった為、階段を降りる際興奮状態で向かうと危険が考えられました。振り返りで少しクールダウンを兼ねています。もちろん、活動の意識付けや次回への意欲、発表での主体的な発言の場の確保の時間でもあります。

※帰りの会で毎日、一日の振り返りを行い、当番から『今日楽しかった事発表』をしています。

■ 『密を避けるためにグループに分かれて行動していた』の意見について。

A. “保育室へ移動する際の階段での密”“トイレでの密”を避けるためパンツ移行済の子ども(14名)から順に移動するようにした。

■評価

〈朝の会〉

- ・出欠確認では、欠席者の名前を子どもに訪ねており、他児を意識できるようにしていた。
- ・季節の歌では手本として前に立つ子どもが安心できるよう、隣に立つ保護者が膝立ちになり目線を合わせていてよかった。
- ・絵本の読み聞かせでは、距離の離れた位置にいる子どもも見やすいように立って読んでいてよかった。

〈主活動〉

- ・粘土を見せて「これ何だ？」の問いかけに「ねんど」と小さく答えた子どもの声を拾い全体に代弁してよかった。
- ・遊び始める前に保育者が粘土の扱い方を手本で見せた事で、子どもが活動に関心をもっていた。
- ・カップやヘラを用意し、遊びが発展し飽きのこない工夫がされていた。
- ・散歩で拾った自然物を活用することで、拾った際の記憶を思い起こしたり、改めて触感を確かめることができていた。
- ・常に子どもに対して保育者が話しかけており、楽しい雰囲気につながっていた。
- ・感触を嫌がることなく集中して遊んでおり、年齢に合った活動であると感じた。
- ・集中して活動に参加していて驚いた。感触を楽しみ、遊び込む姿が見られた。
- ・作った物を見立ててごっこ遊びを楽しむ姿がみられ、遊びが広がっていると感じた。

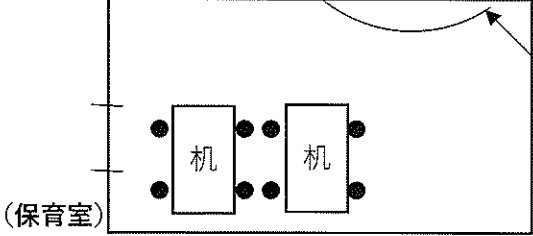
■振り返り

〈良かったところ〉

- ・粘土遊びは何度か行ったことがあるが、ヘラやどんぐりは初めて使用した。子どもたちは道具に興味を示す姿が見られ、いつも以上に遊びが広がったように感じた。今後も様々な道具を出し、更なる発展に繋がりたい。
- ・保「なに作ってるの？」 子「アイス！」等会話が成り立ち、言葉を盛んに発していた。
- ・散歩で拾ったどんぐりをピザやケーキのトッピングとして使用している姿が見られ、見立て遊びが上手になったように感じた。また、自分たちで拾ったどんぐりを使用したことで親しみを持って遊ぶことができた。
- ・思った以上に集中して遊ぶ姿が見られた。

〈反省点〉

- ・粘土を使用する際、子ども達に注意事項のみ伝えた。やってはいけない事の他にも粘土遊びの楽しさが伝わるような話をするともっと雰囲気良く、想像力を掻き立てられたのではないかと思った。
- ・欠席者が2名いたこともあり、いつもより落ち着いて過ごしていたように感じた。欠席していた2名が加わっていればもう少し違う雰囲気でトラブルもあったのかもしれない。

| 公開保育指導案 | | |
|--|---|----------------|
| 令和3年12月2日（木） | 1歳児 8名 | 担任：M.N M.Y Y.S |
| テーマ | 制作遊び | |
| 要領ねらい | 表現(1) 身体の諸感覚の経験を豊かにし、様々な経験を味わう。 | |
| 要領内容 | <ul style="list-style-type: none"> ・表現(1) 水、砂、土、紙、粘土など様々な素材に触れて楽しむ。 ・人間関係(1) 保育教諭等や周囲の園児等との安定した関係の中で、共に過ごす心地よさを感じる。 ・人間関係(5) 幼保連携型認定こども園の生活の仕方に慣れ、きまりがあることや、その大切さに気付く。 | |
| 先週までの活動概要と園児の姿 | お絵描き(ぬり絵)やシール貼りに加え、スタンプ遊びやパズル遊び等、手先を使う机上での遊びへの意欲が高まっている様子。集中力も高まり、新学期に比べ長い時間集中して取り組めるようになったと感じる。また、色への関心の高まっており、色を口にしたり「どんな色が好き」を歌ったりしながら、自分で好きな色を選択してお絵描き等を楽しんでいる。 | |
| 予想される姿・幼児の姿 | 環境・指導のポイント | |
| <p>○サンタクロースの靴下制作(10:00～)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会終了後、壁際に着座し絵本を読む。 ・制作に期待感を持つ。 <ul style="list-style-type: none"> ・名前を呼ばれた子から順番に席に移動し、着席する。 ・保育者の説明を聞く。 ・好きな色のクレヨンを使用し、お絵描きを楽しむ。 ・クレヨンの取り合いになってしまう子がいる。 ・「あお」「きいろ」等、色を口に出す子がいる。 ・靴下へのお絵描きを終える子がいる。 ・シール貼りを楽しむ。 ・シールがなかなか貼れない子がいる ・制作を終える子がいる。 ・新聞紙へのお絵描きを楽しむ。 ・クレヨンの片づけを行う。 ・名前を呼ばれた子から壁際に移動し着座する。 ・友達や自分の作品を鑑賞し、クリスマス会への期待を高める。 ・「〇〇の！」等自分の作品を見つけ、完成したことへの達成感を味わう。 | <ul style="list-style-type: none"> ・朝の会終了後、壁際へ着座するよう促す。 ・制作の導入として、「クリスマスのかくれんぼ」の絵本を読み聞かせし、これからサンタクロースの靴下を制作することを伝える。 ・主が読み聞かせを行っている際に、副・補助は机に新聞紙を貼り、制作の準備を行う。 <div style="text-align: center;">  <p>(保育室)</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の場所が理解できるよう、場所を示しながら1人ずつ名前を呼び、指定した席に着席するよう促す。 ・クレヨンでのお絵描き、シール貼りの見本を実践し、これからすることを理解できるようにする。 ・「クレヨンは1本ずつ使用する」「順番に使う」ことを伝え、ルールを意識できるようにする。 ・子どもの声を拾い共有しながら一緒にお絵描きを楽しむ。 ・「次は何色にする？」等、色への関心を高めるような声掛けを行う。 ・靴下へのお絵描きが終わった子からシールを配布する。 ・シール貼りが難しい子に対して援助を行いつつ、上手に貼れた事の喜びを共感する。 ・完成した子から靴下を回収し、「新聞紙にお絵描きをしてみよう」と声掛け、1人1人の制作ペースに配慮する。 ・回収した靴下は、壁につるしてある毛糸に洗濯ばさみで挟んで、作品鑑賞できるようにする。 ・全員の制作が終わり、お絵描きが満足に出来た様子を確認し片付けを促す。 ・3～4人ずつ名前を呼び、壁際（作品が見える位置）に着座するよう促す。 ・素敵な部分を共有しながら1人1人の作品を紹介し、達成感や友達の商品への関心を高め、活動を振り返る。 | |

■評価

〈ダンス〉

- ・複数あるマットの間をあけて間に立てるようにし、立ち位置を分かりやすくする工夫がされていた。
- ・移動する振付ではマットに描かれた動物のイラストを目印にしており、分かりやすいだけでなく、動物を覚えられるようにしてよかった。

〈主活動〉

- ・導入の絵本と制作内容に連続性があり、よかった。
- ・「〇〇色の靴下」「〇〇色のクレヨン」等色を意識できるような声掛けがされていた。
- ・子ども同士で会話を楽しみながら制作に取り組む姿が見られた。
- ・落ち着いて静かに話を聞く習慣が身につけていると感心した。
- ・制作中、色選びに悩んでいる子がいると保育者が隣に移動し、一緒に色を選び寄り添っていた。
- ・シール貼りでは最初に少ない数のシールを渡すことで、作業に時間のかかる子も飽きる前に全て貼れるような工夫がされていた。又、予備の物を用意しており、早く貼り終えた子が更に貼れるようにしてよかった。
- ・制作したものをすぐに保育室に飾っていて、達成感を感じられるようにしていた。
- ・机の汚れ防止で敷いていた新聞紙に絵を描く時間を設け、書いている間に作品を飾っていたため、飾っている間も子どもが退屈せずに過ごせていた。
- ・一人一人の作品をじっくりと紹介する時間があり、子どもが得意気にする姿が印象的だった。
- ・他児の作品を紹介する際に、一目見て誰の作品か言い当てる子がいて、よく見ていると感心した。
- ・後日予定している、クリスマス会への期待が持てるような内容になっていると感じた。
- ・主となる保育者の声掛けが、はつらつとしていて聞き取りやすかった。
- ・保育者の連携がとれていた。

■振り返り

・絵本からクリスマスにちなんだ活動に繋げたことで、前回の活動(壁面制作でのリース作り)からの続きで作ったものを保育室内に飾る過程が子ども達にとってイベントを楽しみにするきっかけとなり、クリスマス会への期待感も高めることが出来たように感じる。

・事前に活動内容を職員間で話し合い把握していたことで、準備や子どもの援助など役割を分担して行うことが出来た為、スムーズに活動を進めていくことが出来た。また、月齢が低い子や色選びに悩んでいる子にも寄り添って一緒に活動をしたり、提案を出したりしたことで、落ち着いて楽しく活動出来たと思う。

・活動中は子ども達の声に寄り添い会話を楽しみながら活動を進められたように思う。また、色の意識が持てるような声掛けも行えたため、シールとクレヨンで同じ色探しをしたり、「青にする」と色を選んだり、ねらいとなっていた色への関心も高められたように感じる。

・制作中にシール貼りをもっとしたい子に余分にシールを渡したり、クレヨンでのお絵描き中に新聞紙を破いてしまった際にすぐに対応出来たりと、臨機応変に必要な援助ができた。今後も子どもの姿から臨機応変な対応を心掛けていきたい。

・制作したものをすぐに保育室内に飾り、1つ1つの作品の良いところを伝えながら作品鑑賞を行った際には、「〇〇の！」と自分や友達の作品を把握して言い当てたり、嬉しそうな表情を浮かべていたり活動の充実感や達成感が更に高まったように感じる。しかし、作品鑑賞中に机をしまうために保育者が子ども達の視界に入ることがあったため、活動の世界観や集中を削がないような配慮や対応が必要だったように感じる。今後も保育者間で気付きや意見を交換し、積極的に声を掛け合いながら活動を行っていききたいと思う。